

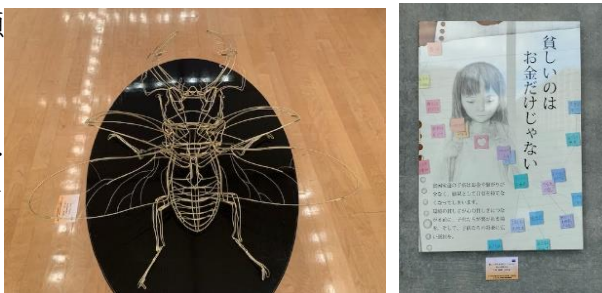
11月12日から14日まで柔道県新人大会が高砂運動公園で行われました。初日女子団体と、男子団体ベスト8までを見



に行きましたが、女子はベスト4、男子はベスト8に入り、近畿大会出場を決めました。女子団体は、1名ケガのために出場できない状態でしたので、横山選手、増田選手2名での戦いが続きました。準決勝も内容で負けたのですが、それぞれが1階級上の選手と当たっており、本人たちの良い経験にはなったようですが、厳しかったようです。女子は、翌日の個人戦でも健闘。横山選手は48kg級で優勝(写真①)。増田選手は57Kg級で準優勝(写真②)。ともに12月に行われる全国高校選手権大会予選にコマを進めました。同大会での優勝者が全国大会に出場できるとあって、大きな目標となります。頑張ってください。一方の男子は、団体で初戦は先鋒ひとりで4人抜き勝利を収め、2回戦も先鋒が2人抜きと引き分け、次鋒が負けたものの、中堅が勝ち越し勝利し、ベスト8進出を決め、この時点で近畿大会への出場が決定。準々決勝では神戸科技高校に敗戦。悔しい結果に。個人戦でも100Kg 超級の神戸選手が3位となり近畿大会出場。並びに全国高校選手権大会予選にも出場することとなりました。なかなかうま

く力を発揮できない2年生の奮起に期待したいと思います。頑張らしましょう。

11月12日から展示が始まった兵庫県総合文化祭美術・工芸部門、及び写真・書道部門を見に行ってきました。美術・工芸部門には本校から3点が出品。立体造形の2年池上君はクワガタを針金で制作(写真左)。なかなかの力作でしたが、昨年に引き続いての全国総文出場はなりません。デザイン・イラスト作品の1年田畑さんはよく考えたメッセージを発信。なかなか良い出来栄でした(写真右)。そして、

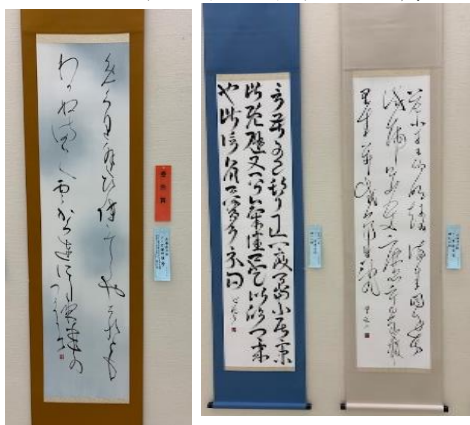


2年寺越さんは、「実録 まなちゃん2021」という作品で2年連続の全国総文出展作品に選ばれました(写真左)。人の顔を表情が本当に写真のように表現されており、遠くから見ているといかにも飛び出てきそうな感じがする迫力のある絵でした。来年度東京都で開催される全国総文に兵庫県代表として参加することになり、連続出場が続きました。おめでとうございます。写真部からは2作品が出展。2年井上さんが「引退の日の背中」という題でバレー選手の写真を、1年河野さんが「船上の朝」という題で波打つ海と朝日の写真を出展していました。この写真展、2人の他にも力作が多く、癒される写真もあれば、何かを訴えようという作品もあり、見応えがありました。同会場では書道展もあり、2年久



保田さんが優秀賞を受賞(写真左)。他2点(写真右)2年市橋さん、永井さんも力作を展示。日頃の成果が垣間見えた作品ばかりでした。文化部にとっては9月の緊急事態宣言時の活動休止期間は準備や、練習がうまくできず作品が間に合わなかった人もいたようですが、他校でも出展された作品は

かなり力のこもった作品や商品として売れるのではないかとと思われるような作品もあり、驚くと同時に感動を覚えました。本校の文化部の生徒の皆さんもよく頑張ってくれました。





11月12日から始まったバドミントン部の近畿大会にはダブルス、シングルスと男女合わせて6人が出場。強豪校との対戦で厳しい戦いだったようですが、収穫は多かったようです。男子は団体での近畿も出場を決めており、そこでの経験も併せて来年度の県総体に向けて対策を練っていきましょう。女子も1年生主体ながら力をつけてきている選手も多くなっているようなので、今後に期待です。



11月14日には春高バレー兵庫県決勝が県立総合体育館で行われました。今年のチームにとっては初めての決勝進出。しかもテレビ中継もあり、センターコートに1面の大きなコートでの試合です。今回は、保護者も人数限定ながら観戦できました(写真左)。独特の緊張感が漂う中、試合開始。厳しい戦いを乗り越えてきた選手たちに期待でしたが、緊張感からか、第1セットの入りで連続ポイントを許し、厳しい局面に立たされました。そのままあまり良いところがなく14-25で第1セットを奪われ、第2セットへ。序盤競ったものの中盤以降差をつけられ、14-25で終了。後がなくなりました。そんなに力の差はないと思うのですが、じわじわ離される展開になりました。第3セットは序盤から競ったゲームを展開。ようやく本校らしいソラーができるようになってきました。要所要所でブロックも決まりましたが、最後は突き放されて17-25で終了。準優勝に終わりました。生徒たちは試合後の感想で試合は楽しめたと言っていましたので、集中した試合はできたと思いますし、最後の最後に保護者に試合

を見ていただけたのは本当に良かったと思います。ただ、毎年負けるのは残念で仕方ありません。チャレンジは続きますが、この舞台を経験し続けることでいつかきっと願いが叶う日が来ると思います。その日までチームとしてやるべきこと、個人としてできること、やらねばならないことをしっかりと考えて挑戦し続けましょう。お疲れ様でした。そして保護者の皆様応援ありがとうございました。(16日の神戸新聞には岡元先生、小林主将、内藤選手のコメントが掲載(写真右)。)

11月も半ばとなり、新型コロナ感染も少し落ち着きを見せ、日常が戻ってきたように思います。一気に朝夕の冷え込みが進み、寒くなってきました。制限が少しずつ緩和されますが、感染防止対策はしっかりとりながら今まで通りの生活を続け、また寒さ対策も取りながら体調管理をしっかりとやっていきましょう。よろしく願います。

